





<p>A-1 ドレインの取り付け位置を決め、型枠に十字の中心線を引いてください。</p> 	<p>A-2 十字線の中心に固定ボルトの中心を合わせて、座をクギで打ち付け固定してください。</p> 	<p>A-3 本体の下部に高さ調節用のスペーサーを差し込み固定ボルトのほぼ中心に設置してください。</p> 	<p>A-4 本体の上部にモルタル流入防止用の養生カバーをかぶせ、蝶ナットで締め付け、ドレイン本体を固定してください。(養生カバーの中心穴がガイドになって、たて樋の中心が容易に合わせられます)</p> 
<p>適用機種 手順例 A</p>			
<p>RVW・RVW-Pシリーズ 1-13,25 RV・RA-Mシリーズ 1-14 RV-P・RA-M-Pシリーズ 1-26</p>	<p>RFBM-K 1-16 RP・RKMシリーズ 1-15 RVSP-K 1-46</p>	<p>SRA-1・SRA-2シリーズ 1-62 SRV・SRAシリーズ 1-63 SRM-1・SRM-2シリーズ 1-64</p>	

<p>B-1・C-1 型枠のドレイン取付位置に十字線を引きます。 (階下のドレイン位置との芯ズレチェックをする場合はφ10mm程度の孔を中心にあけて確認してください。 また、この孔はB~C-4のようにK1ボルトが長い場合にも必要です)</p>  	<p>B-2・C-2 固定座を十字線に合わせて釘打ちをし、固定します。 (この場合、固定座にある↔方向の突起部をみぞ方向と平行にしてください)</p> 	<p>B-3・C-3 固定ボルトを固定座にねじ込みます。 K21固定座50・75用は、上方向に15mm程度の調節ができます。</p> 	<p>B-4・C-4 スラブ厚調節対応のため、長めのK1ボルトを使用する場合およびK1ボルトが長かった場合には、十字線中央の孔よりK1ボルトが型枠より下に突き抜けるように調節してください。</p> 
<p>B-5・C-5 スペーサーをセットします。 (この場合、固定座の突起部とスペーサーの切り欠き部を合わせてください)</p> 	<p>B-6 ドレインをセットします。 (この場合、ドレイン本体の突起とスペーサーの切り欠き部を合わせてください)</p> 	<p>B-7 本体の上部に固定バーをセットし、蝶ナットで締め付け、ドレイン本体を固定してください。</p> 	
<p>適用機種 手順例 B</p> <p>RT・RSMシリーズ 1-20 RSLV・RSLMシリーズ 1-23 BFV-K 75,100 1-24 BFF-M-K 75,100,125 1-24</p>	<p>適用機種 手順例 C</p> <p>RTED-K(B)・RSEDM-K(B) 1-22 RTES-K(B)・RSESM-K(B) 1-22</p>	<p>C-6 ドレインをセットします。 (この場合、ドレインのアンカー突起とスペーサーの切り欠き方向を平行にしてください。 直角にするとセットできません。 また、K1ボルトの天端の位置をドレイン本体高さと同等、または2mm程度下になるように調節してください。 みぞ型枠に当たらない場合は調節の必要はありません。 また、ストレーナ固定ねじはねじ部の養生のため、ねじ込んでおいてください)</p> 	<p>C-7 養生カバーをセットし、K1ボルトに蝶ナットをねじ込みセット完了です。 (養生カバーは、固定ねじがねじ込んであっても後から取付けられるようになっています)</p> 

※寸法100,125のK21固定座は1-80ページ参照。